さきたま歴史ロマンの旅コース

GYODA HISTORICAL ROAD CORSE

埼玉古墳群から古代蓮の里へ

古代蓮自生地周辺の地下に眠る古墳～平安時代の大規模な集落遺跡です。埼玉古墳群の造営に深く関わっていたムラだと考えられています。

宝暦6年（1756）に農耕用の牛馬の供養のために建立された馬頭観音です。元々は耕地中にありましたが、第2次世界大戦中に耕地整理で現在の場所に移されています。お堂の中には、他に7体の石仏も収められています。

明治31年（1898）に建立された愛宕神、明治39年（1906）に建立された若王子大神、塞神が並んで下埼玉地区の氏神として、耕地中にまつられているのが八王子様です。愛宕神と若王子神は、元々はこの地区にあった愛宕古墳と若王子古墳にまつられていたものを、昭和初期に古墳が取り崩された際に移したと伝えられています。

❶ 国指定史跡

埼玉古墳群

県名発祥の地である行田市埼玉周辺に広がる5世紀末から7世紀前半にかけて築かれた国内有数の規模を誇る古墳群です。

国宝金錯銘鉄剣等の出土で知られる稲荷山古墳など大型前方後円墳8基と、日本最大の円墳である丸墓山古墳が群集しており、「さきたま古墳公園」として整備・公開されています。

❷ 行田市指定史跡

旧藩主松平家の墓

海東山天祥寺は忍城主松平家の菩提寺で、文政6年（1823）に松平家が忍城に移って建立した寺院です。

境内には、桑名城から忍城に移った松平忠堯（9代）、松平忠国（11代）、松平忠誠（12代）の3代の忍城主の墓が並んで建てられています。

墓石の形と大きさはいずれも同じで、三重の台石を持ち、高さは約4.5m、石の玉垣が巡らされています。

⑰ 塞神

道路の交差点付近にある道標を兼ねた高さ70cm、幅33cmの塞神です。

道路の反対側の用水脇には、伊勢神宮参拝記念の石碑があります。

⑱ 水塚

江戸時代後半～明治時代前半にこの地域は小針沼の湛水に悩まされていました。また、明治43年（1910）にも大きな水害にあいました。そこで塚を築き、その上に土蔵などを建てて水害に備えたのがこの水塚です。

⑳ 白山愛宕山古墳

現在では墳丘の1/4が残るだけですが、6世紀初めに築かれた直径約40mの円墳です。発掘調査で人物埴輪、円筒埴輪などが出土しています。

❹ 浅間塚古墳

埼玉古墳群南東部、前玉神社の境内にある直径約50mの円墳です。

墳頂に前玉神社、中腹に浅間社がまつられており、❺石燈籠があります。

比較的最近まで古墳かどうか不明確でしたが、発掘調査で幅10mに及ぶ周溝が確認され、古墳と判明しました。

7世紀前半頃に築かれたと推測され、埼玉古墳群の終わりを考える上で重要な古墳と言えます。

❼ 子育て地蔵

この地蔵菩薩は、元は現在の心行地蔵尊の場所にあったもので、花見地蔵、いぼ地蔵とも呼ばれています。

子供の夜泣きにご利益があると伝えられていて、よだれかけを持った人々がお参りに来ています。

❶⑨ 埼玉県指定文化財

白山古墳

埼玉古墳群の北端にある直径約50m、高さ5.7mの円墳です。

墳丘に白山姫神社がまつられていて、その東側に横穴式石室の奥壁と思われる緑泥片岩が露出しています。

また、社殿前の石段右手に積まれている角閃石安山岩も、石室の壁材であると言われています。

⑯ 埼玉県指定文化財

成就院三重塔

五智山成就院は、慶長年間（1596～1614）開山と伝えられる寺院です。

その境内にある三重塔は、享保14年（1729）に建立されたもので、木造一間三層銅瓦棒葺、高さ11.18mの小型の塔です。塔の初重壇上に、忍城主阿部家より拝領と伝えられる葉衣観音菩薩が本尊として安置されています。

初重柱間一間の小型の三重塔は、全国的にみても珍しく、貴重なものです。

❸ 行田市指定文化財

前玉神社の石鳥居

前玉神社の入口にある高さ4.5m、幅5.8mの白河石で造られた鳥居は、延宝4年（1676）に忍城主阿部正能の家臣と忍領内氏子によって建立されたものです。当時は浅間神社信仰が盛んで、社名も浅間神社となっていました。

鳥居は明神系の形式で、正面左側の柱に由来を記した銘文が刻まれています。

当時の神社の隆盛を伝える石鳥居です。

❺ 行田市指定文化財

石燈籠

前玉神社は平安時代の『延喜式神明帳』に「前玉神社二座小」と記されている古社です。

その境内の石段の登り口にある一対の石燈籠は、元禄10年（1697）に地元埼玉の氏子一同が奉納したもので、それぞれの竿の部分に『万葉集』の「埼玉の津」、「小埼の沼」の歌が万葉がなで記されています。万葉歌碑としては、全国的に見ても非常に古いものです。

❻ 行田市指定天然記念物

槙

前玉神社の入口に植えられている「イヌマキ」の雄木は、御嶽山信仰の奉納植樹の神木です。推定樹齢600年、樹高20m、目通り幹周4.0m、根回り5.5mを計ります。

現存する槙としては、埼玉県内最大のものです。

樹幹北側の中央部には空洞があり、中に木曽御嶽神社の石碑が置かれています。

❿ 埼玉県指定旧跡

万葉遺跡 小埼沼

小埼沼は、『万葉集』に歌われている「埼玉の津」の名残りとも伝えられる小さな池です。そのほとりには、宝暦3年（1753）に忍城主阿部正允が建立した小埼沼の碑があり『万葉集』の「埼玉の津」、「小埼の沼」の二首の歌が万葉がなで記されています。

残念ながら小埼沼は「埼玉の津」の名残りではないようですが、忍城主の万葉顕彰事業を伝える貴重な旧跡です。

⓫ 行田市指定天然記念物

魯桑

この魯桑は、この地域に副業として養蚕が導入され始めた明治2年（1869）に植えられた中国原産の珍しい桑です。

樹高約12m、目通り幹周約1.3m、根回り約1.7mを計ります。

かつてこの地域では養蚕が盛んでしたが、その隆盛をもたらすきっかけとなった初期の桑として貴重なものと言えます。

⑫ 行田市指定文化財

旧盛徳寺礎石

埼玉山若王院盛徳寺は、平安時代初期の大同年間（806～810）創建と伝えられる市内最古の寺院です。

郡役所的な役割を果たしていた寺院とも言われ、埼玉古墳群を造営した一族や、埼玉郡出身の第2世天台座主円澄との関連も推測されています。

境内には旧盛徳寺礎石が多数残されていて、大小様々な建物が建ち並ぶ大寺であったことがしのばれます。

⑭ 行田市指定天然記念物

古代蓮自生地

ゴミ焼却場造成工事で掘られた池に、昭和48年に自然発芽した蓮です。

この蓮は、茎が短く桃色を呈する、種子が小さく楕円形で果皮が薄いなどの原始的特徴を持つ古代蓮（行田蓮）であることが、調査で分かりました。

古代蓮は約1,400年前頃よりこの周辺で生育していたようで、毎年6～8月には美しい花を咲かせます。近くには「古代蓮の里」も整備されています。

⑮ 行田市指定文化財

辯天門樋

明治38年（1905）に建設されたレンガ造の門樋で、建設には深谷市上敷免にあった日本煉瓦製造会社の煉瓦約2万4千個が使用されています。

この門樋の特徴は、川表側の壁が左側は直線、右側は曲線と左右非対称であることです。壁が曲線であることも煉瓦水門としては珍しく、造型装飾にもこだわった埼玉県の近代煉瓦生産に関わる貴重な土木遺産です。